

事例 3

「八代集」から兼好法師好みの和歌を見つける

1 育成を目指す言語能力

文体や表現技法等の特徴に注意しながら、書き手の主張や文章の内容をとらえるという言語能力を育成する。新学習指導要領の「国語総合」の指導事項「C 読むこと」の「エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。」を指導の中心に取り上げ、「文体や表現技法等の特徴に注意しながら、書き手の主張や文章の内容をとらえている。」という評価規準を中心にして評価する。また、言語活動例の「エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評したりする文章を書いたりすること。」を参考にして設定した、「『八代集』から兼好法師好みの和歌を見つける」という言語活動を通して、前述した能力を育成する。

この実践は、訓詁注釈に偏りがちな古典の指導を改善し、我が国の伝統的な言語文化に対する生徒の興味・関心を深めるための指導の工夫として、読み比べをする言語活動を取り入れたものである。

2 学習活動の概要

(1) 単元名 随筆と日記 「徒然草」－「花は盛りに」－（兼好法師）

(2) 単元の目標

- ①様々な文章を読んで、表現の意図や特色をとらえようとし、心情を豊かにし、思考力を育て、人間、自然などに対して自分なりの考えをもとうとしたりする。（関心・意欲・態度）
- ②文体や表現技法等の特徴に注意しながら、書き手の主張や文章の内容をとらえる。（読む能力）
- ③「徒然草」と和歌集を読み比べ、書き手の主張や文章の内容をとらえ、共感・疑問・思索などを通して思考力を高め、自分なりの考えを深める。（読む能力）
- ④主な助詞、助動詞等の意味、対句的表現、反語表現、係り結びの用法について理解する。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

(3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
①様々な文章を読んで、表現の意図や特色をとらえようとし、心情を豊かにし、思考力を育て、人間、自然などに対して自分なりの考えをもとうとしたりしている。	①文体や表現技法等の特徴に注意しながら、書き手の主張や文章の内容をとらえている。 ②「徒然草」と和歌集を読み比べ、書き手の主張や文章の内容をとらえ、共感・疑問・思索などを通して思考力を高め、自分なりの考えを深めている。	①主な助詞、助動詞等の意味、対句的表現、反語表現、係り結びの用法について理解している。

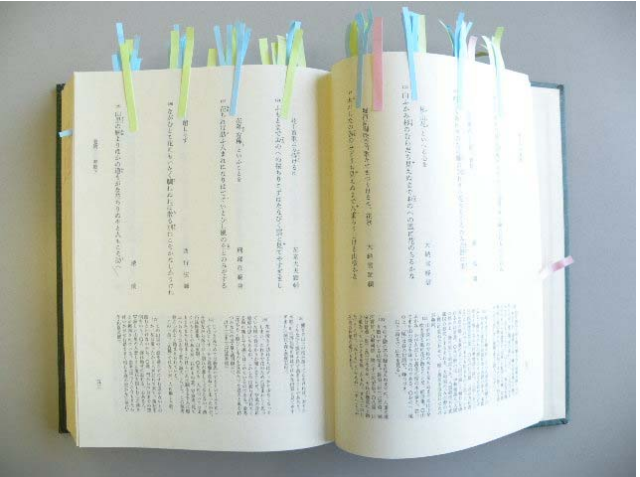
(4) 指導と評価の計画 (5 時間)

時間	学習活動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
1 2	「花は盛りに」の本文の解釈 (1) 本文を読み、主な助詞、助動詞等、対句的表現、反語表現、係り結びを押さえて内容を読み取る。	○次の重要語を指導する。 助詞:「かは」「こそ」「もがな」、助動詞「ぬ・べき」「に・し」、形容詞:「隈なし」「をかし」「またなし」、形容動詞:「あはれなり」「かたくななり」「あだなり」、動詞:「まかる」「かこつ」「眺む」、名詞:「望月」	読む能力① 言語文化と国語の特質① (ノートへの記述の確認)
3 4	「八代集」を読んで兼好法師好みの和歌を探す (グループ活動) (1) 八つのグループで「八代集」を一作品ずつ分担し、それぞれの歌集から、花を詠んだ和歌を選ぶ。 (2) (1) で選んだ和歌を、兼好法師の美意識に「合致する」、「合致しない」、「どちらでもない」の三種類に分類して、本に付箋を貼る。資料 1 (3) 「合致する」として選んだ和歌から、兼好法師の美意識に最も近い和歌を話し合いで選ぶ。 (4) (3) で選んだ和歌の、解釈と修辭の解説文、和歌を選んだ理由をワークシートに書く。	○一グループ五人の編成とする。 ○時間と作業量の都合で、「春」の部だけから選ばれる。 ○付箋の色分けの例 「合致する」(水色) 「合致しない」(黄緑) 「どちらでもない」(ピンク) ○ワークシートに「おすすめの歌」として記入させる。	読む能力② 言語文化と国語の特質① (ワークシート資料 2 への記述の確認)
5	「八代集」の各歌集から選んだ和歌をグループごとに発表する (1) 前時の(4)の内容について、グループごとに発表する。聞き手は、発表を聞いて、感想などをワークシートに書く。資料 3 (2) 学習活動を振り返り、感想を書く。資料 3	○他の班の発表を聞く際には、新たな気付きや疑問点などがないかどうか留意させる。	読む能力② 言語文化と国語の特質① (発表及びワークシート資料 3 への記述の確認)

※「関心・意欲・態度」は単元全体を通して評価する。



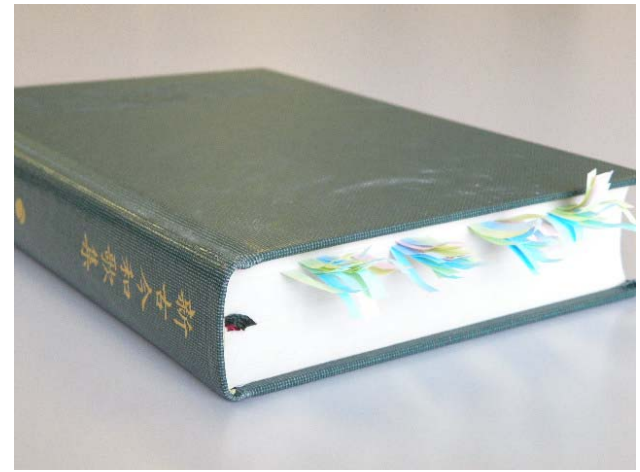
花を詠んだ和歌を選んでいているところ



「春」の部に貼った付箋
(「新古今和歌集」の例)



各歌集から選んだ和歌を黒板に書き出しているところ



選んだ和歌についての解釈や修辞を説明しているところ

3 評価の例

「八代集」から「兼好法師好みの和歌」として各グループが選んだ和歌は、次のとおりである。

和歌集名	古今集	後撰集	拾遺集	後拾遺集	金葉集	詞歌集	千載集	新古今集
「兼好法師好みの和歌」として生徒が選んだ和歌	心地損なひて、患ひける時に、風に当らじとて、下し込めてのみ侍ける間に、折れる桜の散り方になれりけるを見て、よめる 藤原因香朝臣 たれこめてはるのゆくゑも知らぬまにまちし桜もうつろひにけり	桜の花の散るを見て みつね 何時の間に散りはてぬ 覧桜花おもかげにのみ色を見せつゝ	題知らず よみ人知らず 春霞立ち別れゆく山道は花こそ幣と散りまがひけれ	(4班の生徒が「満開でない歌はあったが、兼好が好む歌がなかった」として挙げた和歌) 高砂の尾上の桜咲きにけり外山の霞たゝずもあらなん 大江匡房朝臣	落花満庭といへることをよめる 左兵衛督実能 けさ見ればよはの嵐に散りはてて庭こそ花のさかりなりけれ	住み荒らしたる家の庭に、桜花の閑なく散り積りて侍けるを見て詠める 源俊頼朝臣 掃く人もなきふるさとの庭の面は花散りてこそみるべかりけれ	池水にみぎはのさくらちりしきて波の花こそさかりなりけれ 後白河院	花見侍ける人にさそはれてよみ侍ける 康資王母 山桜花のした風ふきにけり木のもとごとの雪のむらぎえ 堀河院御時百首歌たてまつりけるに、花歌 大納言師頼 木のしたの苔のみどりも見えぬまで八重ちりしける山桜かな

いずれの和歌集からも、兼好の美意識と同じような視点から詠まれた和歌が選ばれている。「後拾遺集」だけ、条件に見合う和歌がなかった旨の但し書きとともに和歌を紹介しているが、それでも満開をよしとするものではない和歌を選んでいる。

また、「解釈・修辞」、「この歌を選んだ理由」の詳細は資料2のとおりである。「修辞」の説明については、概略のみの記載や未記入のものも見られるが、指導計画では、「随筆と日記」が第2学期、「和歌と俳諧」は第3学期であるので、この段階としては、学習に使用した文献を参考にした「解釈」が書かれていればよしとする。「この歌を選んだ理由」には、いずれの班も自分たちなりに考えたことを書いている。内容として「十分満足できる」と判断される状況である。

第5時のグループ発表の際に使用した、聞き取り用のワークシートが資料3である。一例のみ示したが、他の生徒も同様に、各班の発表を聞いて、和歌の感想を記入している。

なお、**資料3**のワークシートに、授業の感想として生徒が書いた文を、次に紹介する。

発表学習後の感想

* 下線は授業者が付す。記入の内容を次のように分類して、下線の種類で書き分けた。

- _____ 兼好の美意識と同じ内容の和歌が意外と多かったこと
- _____ 兼好の美意識に対する理解の深まり
- 学習に対する楽しさ
- ===== 学習の大変さ
- グループ学習の効果
- 学習意欲の高まり
- ~~~~~ 和歌の内容や修辞法への気付き
- 学習の有用感
- ~~~~~ 自然に対する見方の深まり

- ・ 散った桜を美しいとする歌が意外にもたくさんあり、驚いた。クラスみんなで協力して学ぶところがよかった。新鮮な勉強法で楽しかった。
- ・ どの和歌集にも、兼好の美意識にそった歌が意外とたくさんあることが分かりました。庭とか水面とか、いろいろな場所から見ていてすごくおもしろい歌がたくさんありました。
- ・ 初めは満開の桜の花の和歌が多いと思っていたけれど、実際は満開でないほうの歌が多くて驚いた。兼好と同じように考える人も多いとわかった。私も春になったら、このような和歌と同じ考えをもって桜をみたいと思った。
- ・ 解説などを見ないと、作者がどのような意味を込めて詠んだのかわからない歌が多く、とても大変でした。兼好と同じような考えの人も思っていたよりもたくさんいることがわかりました。
- ・ 「拾遺集」からグループで和歌を探して選ぶことで、桜だけでもたくさんの歌があることに気づいた。たくさんの和歌に目を通すことによって、兼好の美意識への理解が深まったと思う。
- ・ 兼好の美意識に最も合っているものを一首選ぶのが難しかった。実際に調べて、兼好の美意識について前よりは理解できたと思う。
- ・ 一つのテーマを決めて、たくさんの歌の中から選ぶのはとても楽しかったです。他の人の好きそうな歌も、また探してみたいと思いました。グループで協力してやるのもおもしろかったです。「花は盛りに」を学習している時は、兼好の気持ちを理解できなかったけど、調べていくうちに、こういうのもありかなと思いました。
- ・ 兼好の観察力の高さはさすがだと思った。散った桜ほど美しいという兼好の美意識は、歌を知れば知るほど出てくると思った。
- ・ 和歌集を調べるのは意外とおもしろかった。自分たちで意味を調べて、詠み手の意図をみんなで考えるのは勉強になったし、楽しかった。
- ・ 解説などを見ないと、作者がどのような意味を込めて詠んだのかわからない歌が多く、とても大変でした。兼好と同じような考えの人も思っていたよりもたくさんいることがわかりました。
- ・ 6班が「詩花集」から選んだ歌は、他と違う視点で詠まれていて面白かった。案外、枕詞を使っている歌が少なかった。

- ・桜の歌は意外に多くて、どれが兼好の美意識に合っている歌なのかを探す作業が大変だった。他の班が選んだ歌は、何かに見立てて歌っている歌が多く、口語訳を聞くと納得できるものが多く、おもしろい歌が多かった。
- ・一つの歌にさまざまな表現技法が使われていた。ほとんどの歌は、桜、または他の何かを満開の桜に見立てており、一つ一つの語句を注意深く、また作者になりきりながら意味を取らないといけないため大変だった。
- ・現代の詩や俳句とは違う表現方法なども知ることができてよかったです。
- ・調べるのは難しかったけど、たくさんの和歌が読めて楽しかった。和歌のつくりの難しさがよく分かり、昔の人はすごいと思った。
- ・一字一句訳すのはとても苦手なので大変でした。調べてみると、一首一首にそれぞれのおもしろさがあり、楽しかったです。花びらが湖の水面に落ちたり、知らぬ間に散ったり……、もっと調べておもしろい歌を探したいと思いました。
- ・兼好の美意識に合った歌を探すのは難しかったけど、判定するのが少しおもしろかった。別の人の美意識に合わせて探すのもやってみたい。
- ・調べて発表する授業もたまにはよいと思った。またやってみたいです。
- ・たくさんの和歌の中から、一つのものを探すのはすごく難しかった。でも、意味を理解したり、条件に合っているかを判断するのは楽しかった。考える力が少しついた気もした。

これらの記述から学習の成果が読み取れる。学習の大変さについて言及した生徒も、拒否反応を示したわけではなく、大変さの反面としての成果について述べている。生徒は、現時点での能力に比して高めに設定された学習課題に対して、困難さを感じつつも仲間と協力して取り組んだことで、達成感を感じていることがわかる。このことから、この実践によって、言語活動を通して指導のねらいを達成できたといえよう。指導者として手応えのある実践であった。

4 成果と課題

(1) 成果

本事例の成果として、次のようなことが挙げられる。

ア 古典の学習に対する「関心・意欲」の高まり

学習後の「関心・意欲」の高まりについても、「もっと調べたい」、「またやってみたい」というような生徒の感想が示すとおりである。「私も春になったら、このような和歌と同じ考えをもって桜をみたい」という記述には、自然に対する見方の変容が如実に表れている。

イ グループ活動での学び合いによる、「読む能力」の高め合い

グループ学習の成果については、複数の生徒の感想が示すとおりである。グループ活動を取り入れたことで、一人では気付かないことでも、グループ内での話し合いを通して気付かせることができた。

ウ 読みの視点の明確化による、「読む能力」や思考力が身に付いたという実感

「兼好の美意識に合う和歌を選ぶ」という視点を一つ与えたことで、和歌集を読む目的が明確になり、生徒は学習活動に主体的かつ活発に取り組むことができた。

エ 読み比べによる日本の美意識に対する理解の深まり

「花は盛りに」と「八代集」との読み比べをさせたことで、日本人の美意識に対する理解が深まった。「花は盛りに」だけを読んだ場合は、満開ではない桜をよしとする兼好の美意識を少数派だと思う生徒は多かった。「兼好の美意識にそった歌が意外とたくさんある」と

このような気づきが複数あったことが示すように、読み比べたことによる理解が深まった。

このように、心情を豊かにし、思考力を育て、人間、自然などに対して自分なりの考えをもたせることなどの、単元の指導目標が十分に達成できた。

(2) 課題

課題として、次のようなことが挙げられる。

ア 短時間で実施可能で、なおかつ効果的な言語活動の工夫

訓詁注釈に偏りがちな古典の指導を改めるために、言語活動は当然取り入れなければならない。しかし、限られた時間の中で3領域1事項を扱う「国語総合」の指導の中では、長時間を要する言語活動を取り入れる時間的なゆとりは少ない。短時間で取り組むことができ、なおかつ効果的な指導を工夫する必要がある。本事例は「国語総合」での試みであったが、「古典」でも指導が可能な指導法である。むしろ、「国語総合」に比べて指導の時間を確保しやすい「古典」での実践において可能性の広がる指導である。

イ 図書資料の確保

参考文献の「新日本古典文学大系」は、学校図書館のものを使用した。しかし、図書をグループで1冊しか閲覧できないことや、複数のクラスで同時展開する際に、付箋を貼ったままにしておくことができない不都合が生じるなど、図書資料の確保に問題があった。ただし、これは、近隣の県立高校や公立図書館との連携を図れば解決できる問題でもあるので、今後、同様の指導を展開する際に、計画的に準備することで対応は可能である。

使用教科書

・『探求国語総合（古典編）改訂版』桐原書店

参考文献

・新日本古典文学大系 岩波書店

- 5 古今和歌集（小島憲之、新井栄蔵 校注）1989年
- 6 後撰和歌集（片桐洋一 校注）1990年
- 7 拾遺和歌集（小町谷照彦 校注）1990年
- 8 後拾遺和歌集（久保田淳、平田喜信 校注）1994年
- 9 金葉和歌集 詞花和歌集（川村晃生、柏木由夫、工藤重矩 校注）1989年
- 10 千載和歌集（片野達郎、松野陽一 校注）1993年
- 11 新古今和歌集（田中裕、赤瀬信吾 校注）1992年

「八代集」から兼好法師好みの和歌を見つけよう

1年組 / 班

十の今和歌

集

メンバー

桜の花の歌 41首

- ・桜が満開 (14) 首
- ・満開でない (17) 首
- ・どちらでもない (20) 首

おすすめの歌 (80)

心地損なひて事心ひける時に、國に当らじとて、下し込めてのめ侍けし間に、折れし桜の散り方になれりけるを見て、よめさ。 藤原因香朝臣
たれこめてはるのゆくふも知らぬまにまちし桜もうつろひにけり

解釈・修辭

藤原因香朝臣は、下してわが身を籠らせて、春の進行の具合を知らないあいだに、侍つていた桜も上をえてしまった。

この歌を選んだ理由

本文にのってた歌だから。

全く桜を見ないのに、桜のこともよんひけるといふがすごい。

白紙によろと花が衰えるという比喩のかたに、春の逝くこと、人の世の定めを見据えているのだという無常観をよんだものらしいから、兼好の美意識に合っている。

「八代集」から兼好法師好みの和歌を見つけよう

1年組 2班

後撰

集

メンバー

桜の花の歌 七十八首

- ・桜が満開 (15) 首
- ・満開でない (22) 首
- ・どちらでもない (39) 首

ピンク 正正正
ブルー 正正正正
グリーン 正正正正正正正

おすすめの歌

桜の花の散るを見て

みつね

何時の間に散り果ててしまったのだろうか、桜は。 面影としてだけ満開時の美しさを我々に見せ続けているけれど。

解釈・修辭

いつの間に散り果ててしまったのだろうか、桜は。面影としてだけ満開時の美しさを我々に見せ続けているけれど。

この歌を選んだ理由

この歌は、昔でしあった花を見て、満開の桜をイメージしているところが兼好の美意識に合致しているから。

「八代集」から兼好法師好みの和歌を見つけよう

1年組3班

拾遺

集

メンバー

桜の花の歌 32首

- ・桜が満開 (12)首
- ・満開でない (12)首
- ・どちらでもない (8)首

おすすめの歌 (74)

祝詞

春霞立ち別れゆく山道は花こそ常と散りまがひけれ

解釈・修辞

し春霞が立つ中、春が別れ去っていく山道には、

花がまさしく常となって散り、散れていくことだ。

↓ 春霞「立ち別れゆく」の祝詞 擬人化

散る花を常に見立てたもの

この歌を選んだ理由

霞とともに春が過ぎ去っていく中で、

花が散り散れるところを美しいとした

無常観が兼好の美意識に合っていると思ったから。

常とは……麻の木綿または紙などをつくり、て

神に祈るときに供え、またはおまげ持つもの。

「八代集」から兼好法師好みの和歌を見つけよう

1年組4班

後拾遺

集

メンバー

桜の花の歌 64首

- ・桜が満開 (21)首
- ・満開でない (21)首
- ・どちらでもない (22)首

22 / 33 / 66

満開でない歌ばかりに、兼好が好む歌はなかった
おすすめの歌

高砂の尾上の桜咲きにけり外山う霞にさすもあらなん

大江匡房朝臣

解釈・修辞

高砂の尾上の桜は咲いたことばかり。まわりの人里近い山々の

霞は立たないでほろもかた。

この歌を選んだ理由

兼好ならば霞が立っていても、後ろの桜を想像するくらい

良いとするが、この歌だと桜が見たいから霞が立つのは

やめてほしいとしていて兼好の考えと逆だから。

「八代集」から兼好法師好みの和歌を見つけよう

千載

集

メンバー

1年組 7班

桜の花の歌 61首

赤・桜が満開 (8)首
青・満開でない (14)首
緑・どちらでもない (39)首

おすすめの歌

院御製

池水にみづはのつくうちりしき

波のや化こそさかりなりけれ

池のほとり
解釈・修辞

池の水に池畔の桜が一面に散り敷いて波の花は今がよい
だよ。

この歌を選んだ理由

花は満開のときだけが美しいというわけではなく、
水面一面に散る桜も花も美しいというわけで、
兼好の考えに合ふ、と思うから。

「八代集」から兼好法師好みの和歌を見つけよう

新古今

集

メンバー

1年5組 8班

桜の花の歌 78首

・桜が満開 (5)首
・満開でない (41)首
・どちらでもない (32)首

おすすめの歌

118 山桜花のりした国みきにけり木のちとゴビの雪のうらぐえ
123 堀河院御時百歌にまろりけるに花散 大納言御親
ありしたの雪のちみどりも見えぬまでハ雪ちりしける山桜かな

解釈・修辞

118 山桜が咲くその花の下陸を国が咲いたのだ。山の木のちにも斑に雪が消えている。
雪のうらぐえと雪の下がそこそこよく散り溜まっているその見えて
123 オウチ陸の雪の降りも見えぬまでに、いかに散り敷いている山桜よ
「このした」と「けし」、「おとり」と「みえぬ」など「やん」と「やま」等の音韻

この歌を選んだ理由

二つの歌は桜が散ったあとと雪の降りるが、地面に散まつめられている
その情景が美しいことを訴えている歌なのと
兼好の美意識に合致していると思ったから
また118の歌は桜の花を雪に見たと訴えている
とても素晴らしい表現だから
123の歌は「けし」や「おとり」などとても色鮮やかであり、
たくさん音韻があるなど優れた技法がたくさん使われているから

徒然草「花は盛り」

「八代集」から兼好法師好みの和歌を見つけよう……まとめプリント

1年 組 番

一・各班のおすめの歌の感想を書こう。

1 「古今集」(905) たいこめてはうのゆくえも知りぬまに
まちし桜もうつくひにけり

感想
病気で部屋にこもって春が通りすぎるのも、
桜が散るのもわかっている、いま、時がどんと過ぎ、
いくと無常感が伝わった。

2 「後撰集」(911) 何時の間にか散りけりめ 桜花おちかけの夕色を見せり

感想
桜の花はもう散ってしまったけれど、そのおちかけの夕
満開の桜を想像して楽しもうというところが兼好法師
の考えにある、かと思えた。

3 「拾遺集」(1006) 春霞 立ち別れゆく
山道は花こそ幣と散りまはせり

感想
目いゆえに神 なものにみたてて、うとこが少し
兼好にあるかと思えた。普通、考えないようなところも
押 なれりとした感じがする、かと思えた。

4 「後拾遺集」(1086) 高砂の尾上の桜咲きにけり
外山の霞にへずしめらん

感想
兼好法師の考えとは逆で、満開の和歌だ、
満開の桜が見えなから、霞がたたないでほしい、と、
とらわつた人の気持ちが伝わった。

5 「金葉集」(1127)

リ、見ればよしの嵐に散りはてて 庭に花の

(1127)

感想
桜の花は散ためとは、満開のときよりよめられたと
いうところが兼好と合っていると思えた。散る今度は庭が
満開だ、というところが良いと思えた。

6 「詞花集」(1151)

押へ入るなきふかとの庭の一面は花かりこそみろ
べかりけり

感想
普段はつまらない庭だと、桜が散ためとの庭はとら
えられて見る価値がある、というところが兼好にある
と思えた。目のつけ所が良かった。

7 「千載集」(1181)

池水にひびきはるさみちちりれさで 桜の花こそさかりなりけり

感想
桜の花が散り、池の水面に落ちて、その水面にうつかん
桜のほうがかえし、というところから兼好にある、
かと思えた。

鎌倉時代

8 「新古今集」(1204)

孫河院御時自歌たまりりけるに 桜の雪むらさき

感想
桜が散ためとの地面一面に散りかけたのが美しい
と考えると、桜を雪にみたてて、さうさうの考えが
か美しい情景が浮かんでくる、かと思えた。

二・この授業の感想を書いてみよう

いろいろな和歌を読んで、初めは満開の桜の花の和歌が、
思えてきたけれど、実際は満開でない、ほうの和歌が、
同じように考える人も、かと思えた。私に合えば、
同じように考える人も、かと思えた。